

1 学習習慣と学力との関連について

(1) 教科や学習についての印象や感じ方との関連

「好きな授業がある」「好きな教科がある」「学校に行くのが楽しい」、また、「先生が自分の良いところを認めてくれる」に肯定的な印象を持つことと学力の間には大きな関係がある。

どのような事象においても当てはまることではあるが、肯定的な印象を持つことによって人は意欲的に活動することができる。学校での活動において先生と児童・生徒との関係、児童・生徒同士の関係が肯定的な状態であることが学力を育む上で土台となる。全ての教育活動において人との関わりは必須であり、教科学習の側面だけではなく、学校、学級の雰囲気、ルールや規律、折り合いをつけるなどの人間関係づくりの側面についても意識していくこと必要である。

(2) 授業内での基本的な取り組みとの関連

「授業内で目標（めあて・ねらい）が示されている」「授業の最後に振り返りの活動を行う」など児童・生徒が学習の見通しや学習したことを認識することと学力の間には大きな関係がある。

自分がやることの見通しや、やったことの確認をすることは、学習内容を把握すること、履修事項を確認することと同義であると言える。児童・生徒側の捉えと、指導者側の捉えが一致することが、お互いが同じ方向性をもって授業に臨むことに他ならない。「見通しー活動ー確認」というサイクルの確立が、誰もが取り組みやすい授業を形成していくことになる。

(3) 主体的で対話的で深い学びとの関連

「課題について自ら考える」「自分の考えを発表する」「友達と話し合う」「相手の話を聞いて考える」など主体的、対話的な活動と学力の間には大きな関係がある。

知識や技能の習得に留まらず、既習事項を活用して課題解決する力がこれからの社会を形成していく児童・生徒には必要になる。それとともに、自分だけでなく他の人と協働することも、社会人として必要な能力である。それを培う上で必要なこ

とは、「基礎的・基本的な知識の習得」と「既習事項を活用する力」を、主体的で対話的な活動を通して、深い学びにつなげていくことが、これから求められる学習の在り方である。

(4) 家庭での学習との関連

家で、「計画を立てて勉強している」「宿題をしている」「予習をしている」「復習をしている」ことと学力の間には大きな関係がある。

学習内容の定着を考えると、その習熟にかかる過程や時間をどのように保証していくか手段を講じなくてはならない。その方法の一つは授業や補充学習であり、もう一つが学校外での学習になる。その中でも大きな役割を担うのが家庭学習である。そのため家庭生活の一部に計画的に学習を組み込むことが必要である。遊びなどの余暇の部分と宿題、予習、復習などの学習の部分バランスよく取り入れることが、無理なく学習を続けられる方法の一つとして挙げられる。

(5) 読書との関連

「読書が好き」について肯定的な印象であることと学力の間には大きな関係がある。

「読書が好き」との回答については、生活の中にどの程度取り入れられているか、生活の一部に位置づけられているかを示す指標であると言える。(1) 同様、好きということが意欲として表れ、それが実際の読書という行動となる。本を読むという活動が定期的に行われることが「読書の習慣化」である。そのことが読書活動の意味として、いろいろな楽しみを知っている、見識が広がる、自分の生活を律するという部分に広がっていくものと考えられる。

2 生活習慣と学力との関連について

(1) 基本的な生活習慣との関連

基本的な生活習慣を維持・向上することと学力の間には大きな関係がある。

「朝食を毎日食べている」「同じくらいの時間に寝ている」「同じくらいの時間に起きている」などの基本的な生活習慣を意識した生活は、学力のみならず体力等の健康な生活を送るためにも必要なことである。体力と気力が充実することで、学習に向かう姿勢が維持・向上させることができ、結果的に様々な部分の成長を促すこととなる。先述したとおり、遊び、学習や読書などのバランスを意識した生活をすることで成長を積み上げていく土台を作り、調和のとれた人間性の基礎を作ることに繋がる。

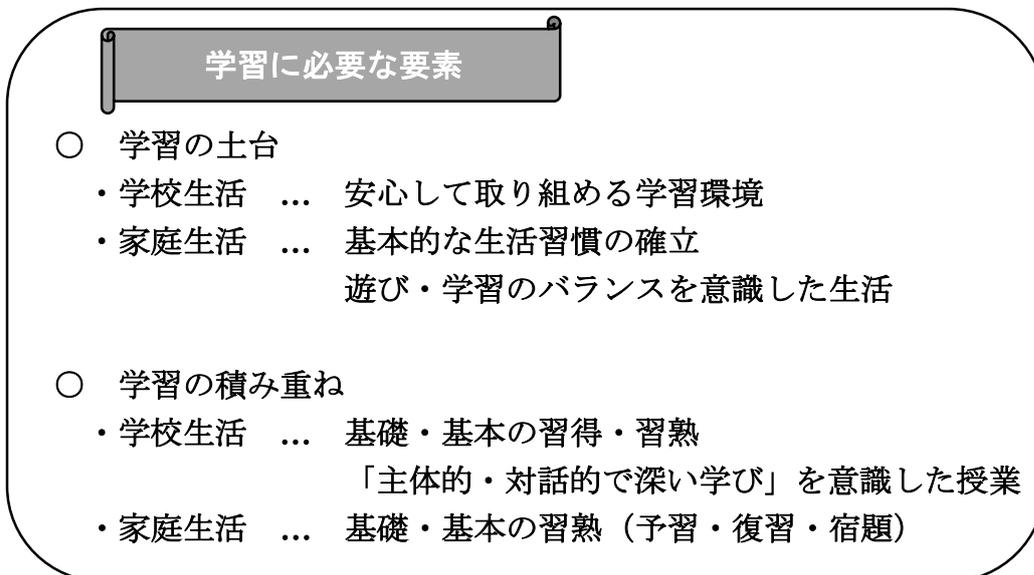
(2) 規範意識と自尊感情、他の児童・生徒との関連

ルールやきまりを大事にすること、自己肯定感、また、他の人と協力することと学力の間には大きな関係がある。

ルールやきまりは人が守らなくてはいけないことと限定的に捉えるのではなく、そもそもルールやきまりは人を守るためにあるということが前提となる。つまり、規範意識を持つことは自分たちの生活を守ることにつながり、安心できる学習環境を構築する上で欠くこのできない要素である。その環境下で個が生き、他の個と協力して学習活動を展開していくことが求められている。

3 クロス集計から見える学習に必要な要素

1、2から、学習に必要な要素について次のことが導き出される。



(学習の要素の概念図)

